

## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月3日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 サンゲツ

コード番号 8130 URL <https://www.sangetsu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 安田 正介

問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 助川 達夫 TEL 052-564-3333

四半期報告書提出予定日 2020年2月10日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	119,610	1.5	6,556	58.6	7,001	45.5	5,013	52.8
2019年3月期第3四半期	117,818	2.0	4,134	△9.4	4,812	△6.0	3,280	△2.2

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 4,469百万円 (71.2%) 2019年3月期第3四半期 2,609百万円 (△39.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	82.35	82.22
2019年3月期第3四半期	52.25	52.14

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	167,994	99,301	58.6
2019年3月期	170,875	100,143	58.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 98,363百万円 2019年3月期 99,139百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	ー	28.00	ー	28.50	56.50
2020年3月期	ー	28.50	ー		
2020年3月期（予想）				28.50	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,000	1.6	8,000	35.7	8,300	23.9	5,700	59.2	92.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	62,250,000株	2019年3月期	62,850,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,689,204株	2019年3月期	1,371,532株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	60,882,411株	2019年3月期3Q	62,791,642株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年4月1日～12月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が継続し、総じて緩やかな回復基調で推移しました。その一方、米中貿易摩擦の長期化など海外経済の減速が、生産や輸出をはじめとする日本の実体経済に影響を与えており、先行きの不透明感が高まっています。当社事業に関連の深い建設市場においては、インバウンドや都市再開発案件等による非住宅分野での需要は底堅く推移しているものの、新設住宅着工戸数は前年比減少で推移しており、住宅分野は全体として力強さを欠いた状況となりました。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画(2017-2019)「PLG 2019」に則り、外部環境の変化に対応し、グループ全体の持続的な企業価値向上を目指した施策に取り組んでまいりました。国内インテリアセグメントにおいては、新規商品の開発と販促を積極的に推し進める一方、3回目となる「サンゲツ壁紙デザインアワード」を開催し、若手デザイナーの発掘・育成の機会を提供するとともに、インテリアの魅力を社会に訴求するブランディング活動にも注力しました。海外セグメントにおいては、米国Koroseal Interior Products Holdings, Inc.における新規の壁紙生産設備の導入をはじめ、生産効率性の強化や営業体制の見直しを進めました。その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高119,610百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益6,556百万円(同58.6%増)、経常利益7,001百万円(同45.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,013百万円(同52.8%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間期首をみなし売却日として、当社の連結子会社である山田照明株式会社の全株式を譲渡し、照明器具セグメントを担っていた同社を連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間より照明器具セグメントを報告セグメントから除外しております。

#### (インテリアセグメント)

壁装事業では、5月に発売した住宅向け見本帳「ファイン1000」の市場浸透が進んだほか、6月に発売した量産壁紙見本帳「SP」における商品ラインアップの拡充が奏功し、売上が伸長しました。また、10月に発売した粘着剤付化粧フィルム「リアテック」では、総点数を増やし意匠性にこだわったラインアップとするとともに、イビケン株式会社の高圧メラミン化粧板「イビボード」との同柄シリーズも新たに収録し、異素材での同柄コーディネートが可能とする新たな付加価値を提案しました。この結果、壁装材の売上高は44,840百万円(前年同期比6.1%増)となりました。

床材事業では、消費税増税による駆け込み需要からの反動減も一部見られる中、医療福祉物件へのデザイン性の高い木目柄のワックスフリー床材「エスリウム」や、オフィスリニューアル物件への汎用性が高いカーペットタイル「NT-350シリーズ」、「NT-700シリーズ」など、各重点分野に向けた戦略商品が市場の評価を得ました。また、インバウンド需要を追い風に、ホテル物件などへの特注ロールカーペットの納品も進んだ結果、床材の売上高は32,900百万円(同4.6%増)となりました。

ファブリック事業では、5月に発売した住宅向けカーテン見本帳「AC」と、壁紙見本帳「ファイン1000」において、トータルインテリアの強みを活かした連動企画の実施等の販促活動に努め、売上が伸長しました。また、カーテン専門販売会社「サンゲツヴォーヌ」において、マンションのオプション会やハウスメーカーのインテリアコーディネーターなどプロ向けのきめ細やかな商品PRに取り組みました。この結果、カーテンと椅子生地をあわせたファブリックの売上高は6,260百万円(同1.8%増)となりました。

これらのほか、施工費や接着剤などを含むその他の売上8,831百万円(同11.8%増)を加え、インテリアセグメントにおける売上高は92,833百万円(同5.8%増)、営業利益は6,730百万円(同55.7%増)となりました。

(エクステリアセグメント)

エクステリアセグメントを担う株式会社サングリーンにおいては、自然災害に伴う補修・復旧工事や防災対策を目的とした改修工事の一巡や、新設住宅着工戸数の低迷により、厳しい市場環境となりました。このような状況下で、台風や積雪に備えるための「高強度カーポート」やインターネット通信販売の拡大に伴い需要の高まる「宅配ボックス」といった高付加価値商品の販促活動を強化するとともに、施工体制の強化や収益構造の改善といった事業基盤の整備に取り組みました。これらの結果、エクステリアセグメントの売上高は12,231百万円(前年同期比3.9%増)、営業利益は515百万円(同29.0%増)となりました。

(海外セグメント)

北米市場を担うKoroseal Interior Products Holdings, Inc.においては、欧州壁紙メーカー「VESCO」をはじめとする他社取次商品の売上が伸長する一方、より強い市場ポジションの構築に向けた施策として、7月には経営体制を一新し、新規の壁紙生産設備を導入するなど、自社ブランド力の強化に取り組んでおります。

中国市場を担う山月堂(上海)装飾有限公司においては、昨年納品した大型物件の反動により、前年比での売上が厳しい状況となる中、取り扱いエレメントの拡充や、Goodrich Global Holdings Pte., Ltd.との中国における協業を進め、より具体的なシナジーの創出を目指しました。

東南アジア市場を担うGoodrich Global Holdings Pte., Ltd.では、低価格品の流入等、市場が大きく変化する中で、短納期での配送を可能とする在庫体制整備や商品構成の見直し、新規顧客の開拓といった営業活動の強化に努めました。

しかしながら、北米市場での主要ターゲットであるホテル改修需要が弱含みで推移しているほか、中国・東南アジア市場でも、競合他社との競争激化等により市場全体の低価格指向が進むなど、厳しい市場環境が継続しており、この結果、海外セグメントにおける売上高は14,804百万円(前年同期比5.5%減)、営業損失は693百万円(前年同期は営業損失600百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前期末に比べて2,881百万円減少し、167,994百万円となりました。また純資産は、前期末に比べて842百万円減少し99,301百万円となり、自己資本比率は58.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月13日発表のとおりで変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	27,220	23,937
受取手形及び売掛金	37,927	34,194
電子記録債権	12,577	13,356
有価証券	300	5,375
商品及び製品	14,597	16,315
仕掛品	377	420
原材料及び貯蔵品	2,357	2,115
その他	2,820	1,768
貸倒引当金	△503	△482
流動資産合計	97,674	97,002
固定資産		
有形固定資産		
土地	19,313	19,232
その他(純額)	16,375	16,502
有形固定資産合計	35,688	35,735
無形固定資産		
のれん	4,680	4,112
商標権	5,873	5,710
その他	6,131	5,558
無形固定資産合計	16,686	15,381
投資その他の資産		
投資有価証券	12,237	12,161
長期貸付金	10	28
繰延税金資産	4,185	4,241
その他	4,499	3,497
貸倒引当金	△106	△53
投資その他の資産合計	20,825	19,875
固定資産合計	73,200	70,992
資産合計	170,875	167,994

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,978	12,861
電子記録債務	12,544	13,926
短期借入金	1,298	1,435
1年内返済予定の長期借入金	500	11,456
リース債務	87	171
未払法人税等	1,632	961
賞与引当金	1,313	1,376
役員賞与引当金	7	31
製品保証引当金	1,041	845
その他	6,984	6,532
流動負債合計	39,389	49,598
固定負債		
長期借入金	18,925	7,354
リース債務	103	186
繰延税金負債	2,492	2,369
役員退職慰労引当金	116	26
退職給付に係る負債	8,108	7,915
資産除去債務	665	656
長期未払金	2	2
その他	928	583
固定負債合計	31,342	19,094
負債合計	70,732	68,693
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,616	13,616
資本剰余金	20,000	20,000
利益剰余金	67,171	67,465
自己株式	△2,889	△3,480
株主資本合計	97,897	97,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,303	2,158
繰延ヘッジ損益	103	35
為替換算調整勘定	416	△57
退職給付に係る調整累計額	△1,582	△1,376
その他の包括利益累計額合計	1,241	761
新株予約権	84	84
非支配株主持分	919	854
純資産合計	100,143	99,301
負債純資産合計	170,875	167,994

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	117,818	119,610
売上原価	80,659	80,286
売上総利益	37,159	39,324
販売費及び一般管理費	33,024	32,767
営業利益	4,134	6,556
営業外収益		
受取利息	23	2
受取配当金	128	135
不動産賃貸料	5	19
持分法による投資利益	313	232
その他	304	205
営業外収益合計	776	595
営業外費用		
支払利息	67	88
自己株式取得費用	7	5
為替差損	10	15
その他	12	41
営業外費用合計	98	150
経常利益	4,812	7,001
特別利益		
固定資産売却益	11	0
投資有価証券売却益	4	2
関係会社株式売却益	—	162
その他	0	0
特別利益合計	16	166
特別損失		
固定資産売却損	13	4
固定資産除却損	28	14
減損損失	35	—
その他	29	2
特別損失合計	107	21
税金等調整前四半期純利益	4,721	7,145
法人税、住民税及び事業税	1,628	2,247
法人税等調整額	△110	△92
法人税等合計	1,518	2,155
四半期純利益	3,202	4,990
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△78	△23
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,280	5,013



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,202	4,990
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△726	△126
繰延ヘッジ損益	△52	△67
為替換算調整勘定	5	△507
退職給付に係る調整額	190	199
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	△18
その他の包括利益合計	△592	△521
四半期包括利益	2,609	4,469
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,689	4,534
非支配株主に係る四半期包括利益	△79	△65

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更)

Goodrich Global Holdings Pte., Ltd. は、第1四半期連結会計期間より、IFRS第16号「リース」(2016年1月公表。以下、「IFRS第16号」という。)を適用しております。IFRS第16号の適用に当たっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類した借手としてのリースについては、適用開始日に使用権資産及びリース負債を認識しております。

本基準の適用に伴い、連結貸借対照表は、有形固定資産のその他175百万円、流動負債のリース債務94百万円及び固定負債のリース債務90百万円が増加しております。なお、当該会計方針の変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	照明器具	海外	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	87,469	11,766	2,923	15,659	—	117,818
セグメント間の内部 売上高又は振替高	286	3	—	—	△290	—
計	87,756	11,769	2,923	15,659	△290	117,818
セグメント利益又は 損失(△)	4,321	399	5	△600	7	4,134

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	海外	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	92,576	12,229	14,804	—	119,610
セグメント間の内部 売上高又は振替高	256	2	—	△259	—
計	92,833	12,231	14,804	△259	119,610
セグメント利益又は 損失(△)	6,730	515	△693	4	6,556

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、照明器具セグメントを担っていた山田照明株式会社の全株式譲渡に伴い、報告セグメントを従来の「インテリア」、「エクステリア」、「照明器具」及び「海外」の4区分から、「インテリア」、「エクステリア」及び「海外」の3区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、株式譲渡前の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

(自己株式の消却)

当社は2020年1月17日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、以下のとおり自己株式を消却しました。

自己株式の消却の内容

(1) 消却する株式の種類	当社普通株式
(2) 消却する株式の総数	500,000株 (消却前の発行済株式総数に対する割合 0.80%)
(3) 消却日	2020年1月31日
(4) 消却後の発行済株式総数	61,750,000株